

5. 普及・広報活動

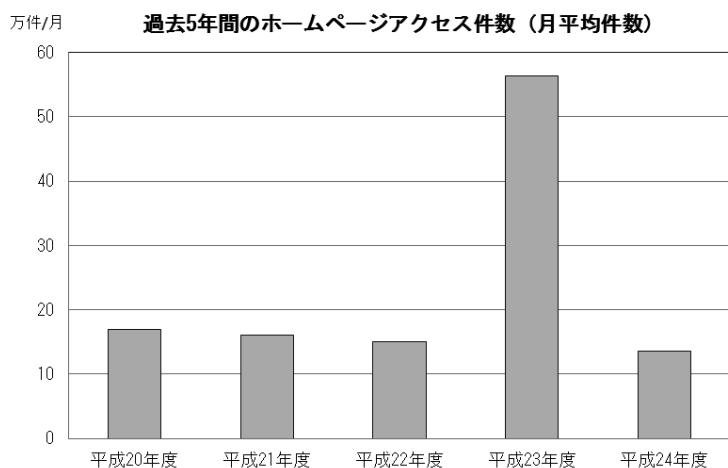
気象研究所では、研究の内容や業務について広く一般の方々の理解を促進するため、気象研究所ホームページやパンフレットなどの媒体を通じて情報を発信している。

また、施設の公開は気象研究所が独自に実施しているもののほか、他省庁の主催する行事への協力や筑波研究機関連絡会、つくば市等の行事と連動し、効果的な普及・広報活動に努めている。

5.1. ホームページ

気象研究所のホームページは、気象研究所の研究活動や内容を内外に向けて積極的に発信することを目的として、平成7年12月から運用している。

気象研究所ホームページは、気象庁のホームページや関連研究機関からリンクが張られており、平成24年度のアクセス件数は月平均で約13.5万件であった。



※H23 年度よりログ解析方法を変更



ホームページアドレス：<http://www.mri-jma.go.jp>

5.2. 施設公開等

一般公開（科学技術週間）

気象研究所では、同じ気象庁に属する観測部観測課所属の気象測器検定試験センター及び高層気象台とともに、科学技術に関する国民の関心と理解を深めるため、科学技術週間[†]の行事の一環として一般公開を行っている。この一般公開では研究・観測施設の公開、ビデオ放映やパネル展示により当所業務の紹介を行うほか、職員自らによる講演や講義によりこれまでに得られた最新の知見を来場者に紹介している。

平成24年度は4月18日（水）に行い、157名の来場者があった。

[†]科学技術週間

科学技術に関し、広く一般国民の関心と理解を深め、わが国の科学技術振興を図るために設定されている週間。

例年、発明の日（4月18日）を含む週が科学技術週間として設定される。

お天気フェア

気象研究所では、気象測器検定試験センター及び高層気象台と共同で、毎年夏休み期間中に「お天気フェア」を開催している。この「お天気フェア」では、研究・観測施設の公開やビデオ上映のほか、研究部ごとに特徴を生かしたブースを設置し、実験や解説を行っている。

なお、このお天気フェアは、つくば市教育委員会が主催する研究機関等の施設見学スタンプラリー「つくばちびっ子博士」の指定イベントとして登録されている。

平成24年度は、8月1日（水）に以下の内容で開催し、2,642名の来場者があった。

	企画内容（タイトル）	主催官署・研究部
講習	天気図講習会	予報研究部
工作	パラシュートを作って、飛ばしてみよう！	高層気象台
施設公開	気象風洞施設	気象測器検定試験センター
体験	気球を空にあげてみよう	高層気象台
見学	オゾンゾンドの観測の見学	高層気象台
展示	気象測器の展示	気象測器検定試験センター
	高層気象観測などのパネル展示	高層気象台
	今の日本全体揺れマップ	地震火山研究部
	あなたの誕生日に地震はいくつあった？	地震火山研究部
実験	紫外線を測ってみよう	高層気象台
	空気砲で遊ぼう	気候研究部
	台風で強風が吹く仕組み	台風研究部
	竜巻発生装置	台風研究部
		気象衛星・観測システム研究部
	雪の結晶を見てみよう	物理気象研究部
	温室効果ガスを見よう	環境・応用気象研究部
	雨粒の形を見てみよう	環境・応用気象研究部
	マグニチュード体験	地震火山研究部
	地震の音を聞いてみよう	地震火山研究部
	赤外線で温度を測る	地震火山研究部
	水とお湯、どっちが重い？	海洋研究部
	二酸化炭素と海の酸性化	地球化学研究部
	ペットボトルの中に雲を作ろう	所長特別出演
その他	気象研究所クイズラリー 「はれるん」とハイ！チーズ！	

施設見学

定期的な一般公開（科学技術週間、お天気フェア）のほか、主として学校教育の一環として行われる校外授業や海外からの来訪者などを対象に、必要に応じて施設見学の対応を行っている。見学内容は、見学の目的や実験の状況などを勘案し、その都度設定している。平成24年度は68件（後述のSSH指定校を含む）の見学を受け入れた。

スーパーサイエンスハイスクール（SSH）

スーパーサイエンスハイスクール（SSH）は、文部科学省が平成14年度から実施している、将来の国際的な科学技術系人材を育成することを目指し、理数教育に重点を置いた研究開発を行う事業である。気象研究所では、この事業の始まった平成14年度から協力を行っており、平成24年度は下記の10校のSSH指定校を受け入れ、研究官による講義、実験、施設の見学などを行った。

- ・ 山梨県立都留高等学校（平成24年8月7日）
- ・ 愛知県立岡崎高等学校（平成24年8月23日）
- ・ 石川県立七尾高等学校（平成24年10月5日）
- ・ 大阪市立東高等学校（平成24年10月30日）
- ・ 熊本県立第二高等学校（平成24年11月8日）
- ・ 作新学院高等学校（栃木県）（平成24年11月14日）
- ・ 埼玉県立熊谷高等学校（平成24年11月28日）
- ・ 福井県立若狭高等学校（平成24年12月18日）
- ・ 神奈川県立神奈川総合産業高等学校（平成24年12月18日）
- ・ 埼玉県立不動岡高等学校（平成25年2月13日）

5.3. 他機関主催行事への参加

つくば市などが主催する、科学技術の普及に関する行事に参加・協力し、気象研究所の研究活動の紹介や、気象・気候・地震火山に関する知識の普及活動を行っている。平成24年度は、下記の行事に参加・協力した。

- | | |
|------------------------|---|
| 平成24年11月17日～
11月18日 | 「つくば科学フェスティバル」（つくば市・つくば市教育委員会主催）に気象研究所のブースを出展し、気象研究所の紹介、気象に関する実験を実施 |
| 平成25年1月22日 | 「TXテクノロジー・ショーケース in つくば2012」（(財)茨城県科学技術振興財団つくばサイエンス・アカデミー、つくば国際会議場主催）の共催機関として参画し、気象研究所の紹介パネル展示を実施 |
| 平成25年3月25日～
3月27日 | 第5回日本地学オリンピック グランプリ地球にわくわく2013(NPO 法人地学オリンピック日本委員会主催)の共催機関として、とっぷ・レクチャーへの講師派遣及び参加者への見学受入を実施 |

このほか、つくばサイエンスツアーオフィス（(財)茨城県科学技術振興財団）や筑波研究学園都市研究機関等広報連絡会議（事務局 つくば市市長公室広報広聴課）などに積極的に参画し、つくば市内の研究機関として広報活動に寄与している。

5.4. 報道発表

気象研究所の研究成果や活動内容を含んだ気象庁の報道発表（定例のものは除く）

- 平成24年4月26日 「長周期地震動に関する情報のあり方報告書」について
- 平成24年5月25日 第1回「竜巻等突風予測情報改善検討会」の開催について
※平成24年度は本検討会を第3回まで開催している（報道発表日は省略）
- 平成24年6月26日 平成24年度気候講演会の開催について
- 平成24年6月26日 遠地津波予測の改善について
- 平成24年6月28日 「降灰予報の高度化に向けた検討会」（第1回）の開催について
※平成24年度は本検討会を第3回まで開催している（報道発表日は省略）
- 平成24年7月9日 都市化の影響による気温上昇等の解析結果について ～ヒートアイランド監視報告(平成23年)～
- 平成24年7月27日 「竜巻等突風予測情報改善検討会」報告書について
- 平成24年9月24日 第4回「緊急地震速報評価・改善検討会技術部会」の開催について
- 平成24年10月15日 「長周期地震動に関する情報検討会」第1回の開催について
- 平成24年11月20日 世界の主要温室効果ガス濃度は過去最高値 ～WMO温室効果ガス年報第8号の発表～
- 平成24年11月20日 海洋酸性化に関する情報の提供開始について ～北西太平洋で海洋酸性化が進行～
- 平成25年3月15日 日本を対象とする詳細な地球温暖化予測について ～「地球温暖化予測情報第8巻」の公表～
- 平成25年3月29日 「降灰予報の高度化に向けた提言」について
※報道発表資料は気象庁ホームページを通じて公表されている。

気象研究所の報道発表

- 平成24年4月6日 平成24年4月2～3日に急発達した低気圧について ～対流圏界面付近の気圧の谷との相互作用および南からの水蒸気供給～
概要：平成24年4月2日から3日にかけて、低気圧が日本海で急速に発達した。この低気圧の急発達は、低気圧と対流圏界面付近の気圧の谷との相互作用および南からの水蒸気供給が大きく寄与していることが判明した。
<http://www.jma.go.jp/jma/press/1204/06a/20120406teikiatsu.html>
- 平成24年5月11日 平成24年5月6日に茨城県つくば市付近で発生した竜巻について
～気象研究所ドップラーレーダー及び気象環境場の解析・高解像度モデルでの再現実験結果～
概要：5月6日につくば市を中心に被害をもたらした竜巻について、気象研究所にあるドップラーレーダーが竜巻に伴う大気下層の渦をとらえていたこと、気象場の解析と高解像度モデルでの再現実験の結果、竜巻を起こすような発達した積乱雲を発生させやすい気象条件であったことを確認した。
http://www.jma.go.jp/jma/press/1205/11c/20120511tsukuba_toppuu.html

平成24年7月23日

「平成24年7月九州北部豪雨」の発生要因について ～強い南西風の持続と東シナ海上からの水蒸気供給～

概要：今年7月11日から1日にかけて、九州北部で大雨が多発し、各地に洪水や土砂による災害をもたらした。大雨の発生要因は、東シナ海上で大気下層に水蒸気が大量に蓄積され、その水蒸気が強い南西風によって持続的に九州に流入したためであることが判明した。

http://www.jma.go.jp/jma/press/1207/23a/20120723_kyushu_gouu_youin.html

5.5. 国際的な技術協力

気象研究所では、気象庁として加盟する世界気象機関(WMO)の枠組みの中で、WMOが行う様々な研修に講師として研究者を派遣するほか、開発途上国などからの研修員を積極的に受け入れている。また、独立行政法人 国際協力機構(JICA)が行う政府開発援助のもとで行う研修においても、気象に関する幅広い技術の指導や支援を行っており、国際的な技術協力を行っている。

そのうち、気象研究所で平成24年度に受け入れた研修は以下のとおりであり、来訪者及び対応者は、8.3「海外研究機関等からの来訪者等」に記載している。

- ・ JICA 国別研修インドネシア「気候変動対策能力強化プロジェクト・脆弱性評価」研修
- ・ JICA 集団研修「気候変動への適応」コース
- ・ JICA 集団研修「気象業務能力向上」コース
- ・ 韓国理工系大学院生研究交流事業 (Winter Institute) 研修生受け入れ

また、地震火山分野にあっては、平成7年以来、(独)建築研究所が行う「国際地震工学研修」グローバル地震観測コースにおいて、地震波解析による核実験識別法の講義等を行うことを通じて、包括的核実験禁止条約の枠組み推進に貢献するとともに、平成23年度からは同研修の個人研修にかかる研修生の受け入れも行っている。